

大学生の希望の規定因に関する検討

—中国の大学生のキャリア意識と出世意欲の視点から—

劉 暢

広島大学大学院総合科学研究科

The Cause for Expectations of the Future for College Students -From the Perspective of Career Consciousness and Success Motivation-

Chang LIU

Graduate School of Integrated Arts Sciences, Hiroshima University

Abstract: The article makes an empirical study on expectation of the future from the perspective of career consciousness and success motivation. The analytic data utilized in this article was acquired from a survey which was taken from 1, 147 college students who are studying in 14 universities of China as the subjects. The results of this study indicate that: Chinese college students' expectations for the future are affected by the social status in which they were born, the consciousness of the social status, and social attitudes; The high career consciousness and positive social attitudes can weaken the adverse effect of the social status in which they were born on their success motivation and enhance their expectations for the future. These results also indicate that to provide career education can be taken as a tactic to restrain the disparity of social status from being intensified. They also make us have an acknowledgment of the important function of career education. Career education is indispensable to the formation of

reformed social attitudes. The enriching of liberal arts education is also very necessary to it.

1. 問 題

希望が人を活気づけ、労働により精励するように動機づけることができる (Smith, 1976)。荊谷 (2001) は、現在の経済格差が人びとの希望の格差を仲介して、将来にわたってさらに拡大、再生産される可能性を指摘している。希望格差の問題について、これから社会に参加しようという若者にとっては、現在の経済・社会状況が意識に反映されやすいのは言うまでもない。特に、時代変化に敏感で不安定化の影響を真っ先に受ける若者たちの中には、未来に対する不信感、そして将来の自分の人生に対する絶望感にとらわれるものも多くなると指摘されている (山田, 2006)。近年経済格差の拡大は世界的な傾向である (山田, 2006)。ちなみに、中国の経済格差の問題が特に懸念されている。中国のジニ係数は0.47であることを発表した (中国国家情報センター, 2010)。

これは、欧州の0.24、日本の0.36を大きく上回っている。この中国のような社会構造の大きな変容は若者の将来に対する希望の持ち方に少なからぬ影響を及ぼすだろう。

本論文では、中国の大学生を研究対象とするため、希望を形作る二つの重要な要素としての出世意欲とキャリア意識を取り上げ、希望の形成過程を具体的に検討する。即ち、キャリア意識の成熟状態と出世意欲の持つ程度から将来に対する希望を測定することにした。

希望をキャリア意識の観点から検討する理由は、希望が私たちが未来に向かって行動させる原動力であり（東京大学社会科学研究所，2009）、特に大学生においてはキャリア意識が希望を形作ると考えられるからである。即ち、大学生にとりて将来に向かい、どれほどキャリア意識を持つかということはどれほど将来に希望を持っているかということの意味しているといえる。次いで、出世意欲を本研究の視点とする理由は、中国における出世文化の影響である。国や文化によっては、出世という言葉を用いること自体に違和感を憶える場合もあるかもしれないが、出世文化のある中国においては、その意欲を強く持つことは将来に対する希望の端的な現れの一つである。

そして、従来の社会的態度の研究では（Morris & Jones, 1955；下村，2006）、社会的態度の違いは人々の生き方や価値観といった人生全体に関わり、ほとんどすべてのことに対する行動に影響を与えていると指摘している。つまり、このような社会的態度が将来に対する希望を意味するキャリア意識と関連しているだろう。

以上の議論に基づき、本論文は中国の大学生を研究対象とし、将来に対する希望と関連する要因として、社会階層、本人の階層意識、社会的態度、職業キャリア意識、出世意欲の5つを取り上げ、階層意識、出身階層、社会的態度が、大学生のキャリア意識や出世意欲の形成とどのように関連するのかを検討し、その検討結果に基づいて、社会階層、階層意識、社会的態度、キャリア意識と出世意欲の関係をモデル化することを目的とする。

2. 方法

調査の実施 調査対象者は中国の14大学の現役大学生1147名。尺度 ①キャリア意識：坂柳（1999）のキャリア成熟尺度の中の職業キャリア成熟尺度（27項目）を中国語訳したものを用いた。②社会的態度：加藤・加藤（1987）の社会的態度尺度（40項目）を中国語訳して用いた。③出世意欲：堀野・森（1991）の競争的達成動機の中から2項目と独自に作成した10項目を合わせて合計12項目からなる。④社会階層の測定：社会階層は親の職業と学歴の2側面から捉えた。

キャリア意識と出世意欲の規定因モデルを検討するため、社会階層関連の2変数、階層意識、革新的態度、無気力的態度、キャリア意識関連の3変数ならびに出世意欲の変数を用いて、構造方程式モデリングによる共分散構造分析を行った。方程式モデリング分析を行ったところ、革新的態度はほかの変数と有意な関連がなかったため、モデルから削除した。モデルの適合性は（GFI=.987, AGFI=.973, RMSEA=.043）良好であった。

3. 結果

社会階層は、階層意識、無気力的態度を仲介し、キャリア意識と出世意欲と関連することが示された。また、社会階層は階層意識、キャリア意識に直接的に関連するが、無気力的態度と出世意欲に直接的な関連は認められなかった。ここでは革新的態度を調整変数として捉え、その高低によって他の諸変数間の関連性の強さが変化するかを探索的に検討することとした。

サンプルを革新的態度の高低によって2群に分け、多集団同時分析を行った。モデルの適合度は良好であった（GFI=.984, AGFI=.964, RMSEA=.029）。具体的に、革新的態度低群では、社会階層は、階層意識、無気力的態度を仲介し、キャリア意識と出世意欲と関連していた。これは最初の全体の結果と同様である。全体の結果と異なるのは、社会階層はキャリア意識を仲介せずに出世意欲に直接関連することが示されたことである。一方、革新的態度高群では、社会階層は出世

意欲の形成に直接的な関連がなく、社会階層はキャリア意識の影響を仲介して出世意欲と関連することが示された。これは全体の結果と同様であった。

以上の結果より、中国の大学生のキャリア意識と出世意欲の形成は社会階層、社会的態度、階層意識などと密接に関連することが明らかとなった。さらにキャリア意識が出世意欲と関連することも示された。また、革新的態度の高低によって、社会階層と出世意欲との関連のあり方が異なっていた。革新性の低い大学生では、出身階層とキャリア意識との関連は弱く、出世意欲とは直接的な関連が示され、社会階層が高いほど出世意欲が低く、逆に、社会階層が低いほど出世意欲が高かった。一方、革新的態度の高い大学生では、出身階層が高いほどキャリア意識が薄く、それに対し、出身階層の低い大学生ほどキャリア意識が強いことが示された。このようなキャリア意識がさらに出世意欲と正の関連が見られた。

4. 考 察

本研究の結果から、(1) 中国の大学生の階層意識は社会階層といった親の職業と学歴と有意な相関を持っている。(2) 革新的態度ならびに無気力的態度とキャリア意識と出世意欲と全て有意な相関を示している。(3) 中国の大学生の将来に対する希望は親の社会階層だけではなくそれと関する階層意識と社会的態度とも関連していることが示された。また、革新的態度の高低によって、社会階層のキャリア意識と出世意欲に対する影響のあり方に違いのあることが明らかになった。

以上の結果から明らかになることは、第1にキャリア意識を高く持つことの重要性である。キャリア意識の高さが出世意欲とポジティブに関連することが、革新的態度の水準にかかわらず認められている。第2に大学生の革新的態度の醸成の必要性が指摘できる。この態度の低い大学生においては、社会階層の低さがキャリア意識を仲介することなく出世意欲と直接的に関連している。これらの結果は、格差の拡大しつつある、あるいは拡大してしまった社会においてはキャリア教育と革新

的態度の醸成がともに重要であることを示唆するものである。

革新的態度、言い換えれば、自身の行動によって社会をよりよいものにできるという価値観を持つならば、階層が低くても計画性を持った出世意欲が醸成され得るのである。以上の結果からキャリア教育の実施と充実が社会格差の拡大を抑制する方策であることが示され、その意味でキャリア教育の役割が改めて認識された。一方で、革新的な社会的態度の醸成はキャリア教育のみによって実現するとは言い難い。学生が出身階層によるネガティブな意識から脱却するためには、キャリア教育とともに革新的態度の醸成につながるような教育が鍵となる。そのためには、教養教育の一層の充実が必要だろう。

今後の課題は、自律的で計画性を持った将来展望の醸成につながるキャリア教育の具体像を検討することである。また、社会的態度の醸成に効果的な教育の在り方、そしてそれとキャリア教育との適切な連携の在り方についての検討も必要であろう。

参考文献

- 堀野緑・森和代 1991 抑うつとソーシャルサポートとの関連に介在する達成動機の要因 教育心理学研究, 39, 308-315.
- 苅谷剛彦 2001 階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会へ 有信堂高文社 Pp.214-217.
- 加藤厚・加藤隆勝 1987 現代青年の社会的態度の構造-態度構成の次元検討-筑波大学 心理学研究, 9, 87-93.
- Morris, C. & Jones, L. V. 1955 Value Scale and Dimensions. *Journal of Abnormal & Social Psychology*, 51, 523-535.
- 坂柳恒夫 1999 成人キャリア成熟尺度 (ACMS) の信頼性と妥当性の検討 愛知教育大学研究報告, 48, 115-122.
- Smith, Adam 1976 *An Inquiry into the Nature and Cause of the Wealth of Nations*. Oxford: Oxford University Press.
- 中国国家情報センター 2010 (2011/4/4)
- 山田昌弘 2006 新平等社会-「希望格差」を超えて-文藝春秋 Pp3